

## 第5回(平成20年度)IODP部会・執行部会 議事次第

日時: 2008年9月30日(火) 14:30~18:30

場所: 海洋研究開発機構東京事務所 大会議室

### 出席者(敬称略)

執行部: 川幡穂高(東京大学) 阿波根直一(北海道大学) 荒井晃作(産業技術総合研究所)  
安間了(筑波大学) 池原実(高知大学海洋コア総合研究センター)  
山崎俊嗣(産業技術総合研究所) 山田泰広(京都大学) 山本啓之(海洋研究開発機構)

文部科学省海洋地球課 : 堀正彦 笹山岳大  
海洋研究開発機構 国際課 : 花田晶公  
海洋研究開発機構 CDEX : 平朝彦 川村善久 江口暢久

事務局: 中山敦志 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

### 欠席者(敬称略)

執行部: 井上麻夕里(東京大学) 北村晃寿(静岡大学) 小平秀一(海洋研究開発機構)  
坂本竜彦(海洋研究開発機構) 高澤栄一(新潟大学) 日野亮太(東北大学) 松本剛(琉球大学)

### 議事次第

#### 1. SAS 関連

- ・MEXT-NSF(080922-23)会議報告〔文部科学省〕 [資料 1-1]
- ・#12 SPC(080825-27)会議報告〔阿波根委員/事務局〕 [資料 1-2][資料 1-3]
- ・#13 SPC 代理委員選出〔事務局〕
- ・SASEC 委員後任選出

#### 2. 学術交流関連

- ・JpGU 2009 “地球掘削科学”セッション レギュラー化について〔井上委員/事務局〕
- ・日韓シンポジウム(080921) & WS(080922) 開催報告〔阿波根部会長補佐/事務局〕 [資料 2-1]
- ・日独交流の検討状況について〔川幡部会長/JAMSTEC 国際課〕 [資料 2-2]

#### 3. 普及広報関連報告

- ・J-DESC コアスクール: 古地磁気コース(080806-08)開催報告〔山崎委員/事務局〕 [資料 3-1]
- ・「ちきゅう」船上研究経験スクール(080926-28)開催報告〔池原委員/事務局〕
- ・IODP 普及キャンペーン in つくば(学生向け:080905) 開催報告〔安間委員/事務局〕
- ・#6 アースラウンジ(080927-1019)への開催協力について〔山本委員/事務局〕 [資料 3-2]
- ・スミソニアン博物館での「ちきゅう」展示について〔JAMSTEC 国際課〕 [資料 3-3]

#### 4. 乗船関連報告

- ・Great Barrier Reef ノミネーション報告〔事務局/山崎委員〕 [資料 4-1]
- ・JR 号の IODP 復帰の遅れについて〔事務局〕 [資料 4-2]
- ・南海トラフライザー掘削への孔内計測 WG からの提案報告〔山田委員/事務局〕 [資料 4-3]

#### 5. Domestic Big Meeting WS 関連検討〔川幡部会長ほか〕

[資料 5-1][資料 5-2]

#### 6. その他

- ・IODP 応援メッセージについて〔川幡部会長/事務局〕 [資料 6]
- ・J-DESC 収支中間報告〔事務局〕 [資料 7]
- ・J-DESC 賛助会員機関の勧誘状況について〔事務局〕
- ・出張におけるマイルージの取り扱いについて [資料 8]
- ・次回執行部会日程 等

## 議事録（案）

### 1. SAS 関連

- MEXT-NSF(080922-23)会議報告〔文部科学省〕  
新たに着任した堀 正彦企画官の紹介がなされた  
堀 企画官より標記の件について報告がなされた
  - MEXT-NSF 会議がハワイにて開催された
  - 2013 年以降 IODP をどのように進めていくかについて検討を始めた
  - 次の 1 月の Council 会合に向けて準備をすすめている
  - 予算獲得のためにはそれなりの成果が必要である
- #12 SPC(080825-27)会議報告〔阿波根委員／事務局〕  
阿波根部会長補佐より資料 1-2, 1-3 に基づき標記の件について報告がなされた
  - 8 月 25~27 日に札幌で開催された
  - 8 月の段階での航海のスケジュールは、JR 号が 11 月 Canterbury, 1 月 Wilkes Land, 3 月 Equatorial Pacific, その後 non-IODP, 「ちきゅう」は 3 月から初のライザー, インプットサイトのライザーレス掘削, MSP は来年夏に New Jersey, 秋から冬にかけて Great Barrier Reef を実施する
  - NanTroSEIZE のサイエンスアップデートについて, Harold Tobin 氏と木下正高氏からこれまでの成果と今後の予定に関する説明があり, ライザーのサイト変更について議論があったが, SPC では PMT の判断を尊重することが合意された
  - STP 関連: Microbiological Repository に関して, 高知コアセンターにおいて長期的サンプル保管についての予備調査(予算・方法など)を行うとの合意がなされた
  - モホを対象とした Ultra Deep Drilling に関する draft scoping study を 1 月までに EDP で準備することが合意された
  - ODC(Ocean Drilling Consortium): JR 号の non-IODP ワークとして, 産業界と研究者コミュニティーの共同体として組織した ODC が年間 4 か月分 JR 号を借り上げるという計画についての進捗状況が報告された
  - ODC が POC, SOC とも負担. Science Party は公募. 2 年間のモトリアム期間後にサンプル・データを公開
  - CPP: POC の 70%を Third Party が負担し, IODP の枠組みで掘削研究を行う(SOC は 100%IODP が負担). 例えば, アメリカはエネルギー省協力の下, ガスハイドレート掘削の検討も行っている
  - EDP: Motion Decoupled Hydraulic Delivery System は次年度も開発を継続. 新たにワイヤーラインマグネットメーターの開発を加える
  - NanTroSEIZE 以降のライザー掘削航海について: CRISP(コスタリカ)を候補として推薦する
  - SPC でのプロポーザルのハンドリング: 2009 年 3 月は SSEP から送られた新たなプロポーザル, SPC に既存のプロポーザル, OTF に送られた Tier2 のすべてのプロポーザルをランキングする. 2010 年 3 月は SSEP からの新たなプロポーザル, SPC に既存のプロポーザル, Tier2 で OTF に送られて 2 年が経過したものをランキングする
  - INVEST: 2009 年 9 月 Big Meeting (INVEST), 2010 年前半 Proceedings の出版, 2010 年後半 INVEST を Science Plan になおす, レビューを経て 2011 年に新たな Science Plan が出版, 2012 年 Funding Agency での承認
  - IIS-PPG: “PPG”は ad hoc なものであるため, 今後これを発展的なものとするか継続するかなどについて次回の SPC にて検討することが合意された

引き続き CDEX 江口氏より各 IO による研究航海スケジュールについて報告がなされた

- 「ちきゅう」は 3 月からライザー掘削航海/ライザーレス掘削航海を 1 セットで 150 日 (Exp.319), 引き続きインプットサイトでライザーレス掘削航海を行い, あわせて半年間の掘削航海を行う
- MSP は予定に変更はないが, New Jersey が遅れたら Great Barrier Reef は FY10 になる
- #13 SPC 代理委員選出〔事務局〕  
事務局より標記の件について説明がなされた
  - 大河内委員が欠席予定のため 1 名の代理委員が必要となっている
  - 川幡部会長が SPC 代理委員に立候補し, 承認された
  - 丸茂委員が退任するため, 後任が必要 (SPC は形式上公募するが, ある程度選出しておく)
  - 後任は地球物理, 地球化学, 岩石学の専門で SSEP 経験者をリストアップして後日事務局から執行部に送りメール会議で推薦することとなった
  - SPC の Mori 議長 (2009 年 8 月退任) の後任候補として佐竹氏が挙がっているが, これについてもメール会議で候補者を選出する
- SASEC 委員後任選出
  - 現 SASEC 委員に後任の推薦をお願いしたところ, 静岡大学の加藤氏が推薦された
  - 執行部としても加藤氏に就任をお願いすることが承認された

### 2. 学術交流関連

- JpGU 2009 “地球掘削科学”セッション レギュラー化について〔井上委員／事務局〕

事務局より標記の件について報告がなされた

- ・ 来年度から地球掘削科学セッションがレギュラー化されることが JPGU で承認された
  - ・ JPGU のレギュラー化検討委員会からは、ポスター発表の件数をもっと増やすよう努力してほしいとのコメントをもらっている
  - ・ セッションタイトルの変更意見は出なかった
- 日韓シンポジウム(080921) & WS(080922) 開催報告 [阿波根部会長補佐/事務局]  
阿波根部会長補佐より資料 2-1 に基づき、標記の件について報告がなされた。
    - ・ 9 月 21 日に地質学会にてシンポジウム、同日夜に懇親会、22 日にはワークショップが開催された
    - ・ ワークショップではテクトニクスと古海洋・古気候の 2 グループに分かれて検討が行われた
    - ・ 2009 年 10 月 1 日のプロポーザル締め切りに向けて、2009 年 6 月末に沖縄で 2 日間程度の関係者打ち合わせを行う
    - ・ 今後、IODP 部会の部会長は任期の 2 年間のうちに 1 回は韓国(KIGAM)を訪問することを次期執行部への申し送り事項とすることが合意された
  - 日独交流の検討状況について [川幡部会長/JAMSTEC 国際課]  
川幡部会長より資料 2-2 に基づき、標記の件について説明がなされた
    - ・ 日独の若手研究交流プログラムについて稲垣氏がドイツに言って話をしてきたとの報告を受けた
    - ・ 高知コア研究所ではこの 2 年間、NSF-JSPS 枠組みで大学院生の受け入れを行っており、日独でも J-DESC を窓口として検討してほしいとの要請が徐氏から来ている
    - ・ ドイツではこのようなプログラムの金銭的支援の枠組みができていますが日本では必ずしもそうではない

### 3. 普及広報関連報告

- J-DESC コアスクール: 古地磁気コース(080806-08)開催報告 [山崎委員/事務局]  
山崎委員より資料 3-1 に基づき、標記の件について報告がなされた。
  - ・ 8 月 3-6 日に高知コアセンターにて開催された
  - ・ モチベーションが高い参加者が多く、参加者の満足度も高いスクールとなった
- 「ちきゅう」船上研究経験スクール(080926-28)開催報告 [池原委員/事務局]  
池原委員より標記の件について報告がなされた
  - ・ 講師は池原委員、鈴木紀毅氏、佐藤 暢氏、石橋純一郎氏
  - ・ コアフローを体験することができるスクール
  - ・ 参加者の半分は学部生
  - ・ 次回からは J-DESC としても積極的に援助をしていく方向
- IODP 普及キャンペーン in つくば(学生向け:080905) 開催報告 [安間委員/事務局]  
安間委員より標記の件について報告がなされた
  - ・ 9 月 5 日に山本委員、巽 好幸氏、木村 学氏に講演をしていただいた
- #6 アースラウンジ(080927-1019)への開催協力について [山本委員/事務局]  
山本委員より資料 3-2 に基づき、標記の件について報告がなされた
  - ・ 日本科学未来館で行われている土日のイベント
  - ・ 土曜日には巽氏が現地にて IODP や「ちきゅう」の解説を行う
- スミソニアン博物館での「ちきゅう」展示について [JAMSTEC 国際課]  
国際課花田課長より資料 3-3 に基づき、報告がなされた
  - ・ 9/27 からスミソニアン自然史博物館オーシャンホールに「ちきゅう」1/100 模型が展示されている
  - ・ 10/3 には IODP-MI が主催するレセプションも行われる

### 4. 乗船関連報告

- Great Barrier Reef ノミネーション報告 [事務局/山崎委員]  
事務局より資料 4-1 に基づき、標記の件について報告がなされた
  - ・ Great Barrier Reef のノミネーションを行った
  - ・ Co-chief である横山氏より以前要請があったとおり、年代測定ができるオーストラリア人の日本枠での乗船を考慮し、A, B, A' というランキングにした
  - ・ A' の人はオーストラリア人が日本枠で乗船することになった場合外れることになる
  - ・ オーストラリア人の GBR の乗船枠は 1 人で Co-chief がオーストラリア人なので、乗船研究者は乗せられないが、他の MSP 航海(New Jersey)に乗船しなければ 2 人 GBR に乗船できる
  - ・ 年代測定ができるオーストラリア人については、まず、オーストラリア枠で乗船してもらうように Co-chief が ESO と交渉し、それがだめなら日本枠を使って乗船させる用意があることを伝える段取りになっている

- 掘削航海専門部会では日本人 Co-chief がいる場合といない場合でランキングのやり方を変えている
- JR 号の IODP 復帰の遅れについて〔事務局〕  
事務局より資料 4-2 に基づき、標記の件および航海に関することについて報告がなされた
  - JR の船内配線工事が遅れているため、納船が 1 月下旬に遅れる
  - Canterbury と Wilkes Land 航海を含めた研究航海スケジュールの再検討が OTF にて行われている
  - Exp. 319, 322NanTroSEIZE の応募者は今のところない(10 月 15 日締切)
  - これから行う研究航海についてテーマを紹介するなどのアウトリーチ活動をより活発に展開する必要があるとの意見が出された
- 南海トラフライザー掘削への孔内計測 WG からの提案報告〔山田委員/事務局〕  
山田委員より資料 4-3 に基づき、標記の件について報告がなされた
  - NanTroSEIZE Riser について泥水検層の経験者に孔内計測 WG がコンタクトを取り、応募してもらうことを要請することが承認された
  - 上記に関する候補者について科学計測専門部会長から掘削航海専門部会長に公式に endorsement を出す
  - 孔内計測 WG にて準備を進めている、カッティングス試料を用いた研究のトレーニングをプレクルーズトレーニングとして認めることが承認された
  - 関連して、技術開発推進専門部会が窓口となり、技術開発提案ならびに掘削提案を作成する際の技術開発に関する問い合わせに答える用意があることが報告された。この提案は掘削研究専門部会にも伝えられる

## 5. Domestic Big Meeting WS 関連検討〔川幡部会長ほか〕

川幡部会長より資料 5-1, 5-2 に基づき、標記の件について説明がなされた後、各委員から意見が述べられた

- スケジュールは、1)今日の会議で世話人を決定、2)10月中旬に世話人会を開催、3)ワークショップ参加者(約120人程度)を募集、4)11, 12月ごろに泊り込みで各分野のワークショップを開催、5)12月末までにドキュメントをまとめた冊子・方針を決めるための世話人会議を開催、6)さらに1月, 2月に2回ほど会議を開催する
- 参加者のうち20名を若手、20名をこれまでIODPにあまり関わってきていない研究者の枠とする
- 世話人が決まり、ワークショップ参加者が100人を超えた場合は、近場の人には自費で来てもらうようお願いする
- 選出された世話人には、INVESTに参加してもらうことになる

山本委員:Deep Biosphere については、高井氏、稲垣氏とも相談している。もっと広い範囲の人を巻き込んで検討する必要があるが、まだ掘削されていないのでその先を考えるのは難しい。Geochemistry と Hydrogeology は関連が深く重要であり、徳永氏と石橋氏にお願いすることを考えている。

山田委員:大深度掘削のためのサイトサーベイには時間とお金がかかるため、そのようなプロジェクトには組織的にサポートしていかなければ難しい。Geohazard は日本発テーマとして欠かせないものだと思う。深部では地震が起こっている場所での物質科学、地質と地震の関係。浅部では地震の面的な解析を行う必要がある。深部と浅部の両面から検討を行う。

荒井委員:これまでとは違う顔ぶれがいたほうが、新しいサイエンスが出るのではないかと。例えば佐竹氏など。

山崎委員:これまで制度を整備してきた、「IFREE が行う地下構造探査」がうまく動けば、大規模なサイトサーベイに関する問題も解消できるのではないかと期待している。Mantle and core dynamics については、これ単独でワークショップを開催するにはあまりにコミュニティが小さいため、Formation of oceanic and arc crusts とあわせてほうがよい。

安間委員:「ちきゅう」など大きなプロジェクトに関してはある程度方向性を作ってやったほうがよい。そのためにはいろいろな分野から多くの人が参加し議論することが必要。

池原委員:Paleoenvironment がどういう方向に行くかは見えづらいことがあるが、Ultra High Resolution をさらに突き進めること、そして、白亜紀などより古い時代をカバーし、地球システムの変動史を明らかにすることが大きな流れになるのではないかと。深いコアの回収率を上げて掘ることが重要になってくると思う。ICDP との連携をとることも日本オリジナルとして出していければよい。

阿波根委員:ヨーロッパのように、日本でも重点目標を絞って科学目標に入れ込んでいくことが重要。サイエンティストのコミュニティとしては、技術開発に関しても情報交換をすることが必要。

平氏:技術開発やサイトサーベイに関して CDEX/JAMSTEC としてもサポートするので、そのようなことも含めてワークショップを展開していただきたい。

### 世話人選出結果

Deep Biosphere and Sub-seafloor Aquifer: 山本委員, 高井氏, 徳永氏, 石橋氏

Formation of Oceanic and Arc Crusts/Mantle and Core Dynamics: 海野氏, 阿部氏, 山崎委員, 田中氏

Paleoenvironment: 川幡部会長, 黒田氏, 井龍氏, 西氏

Geohazard: 山田委員, 佐竹氏, 日野委員ともう一人

## 6. その他

- IODP 応援メッセージについて〔川幡部会長／事務局〕  
川幡部会長より資料 6 に基づき、標記の件について説明がなされた
  - コメントなどがあれば一週間以内に事務局にメールにて行う
  - その後、英訳し、英文添削(川幡部会長より添削会社を紹介)に出した後各国に送付する
- J-DESC 収支中間報告〔事務局〕
  - 報告はメールにて行う
- J-DESC 賛助会員機関の勧誘状況について〔事務局〕
  - 賛助会員に関しては 10 月をめどに川幡部会長もご挨拶に行つて勧誘を行う
  - 九大の狩野さんに入会をお願いする
- 出張におけるマイレージの取り扱いについて  
事務局より資料 8 に基づき標記の件について報告がなされた
  - 出張時のマイレージ取得自粛は解除となった
  - 出張で取得したマイレージは関連する出張などで有効に活用していただきたい
- その他
  - JAMSTEC が「ちきゅう」の新運航会社として日本マントル・クエスト(株)と契約を行ったことが、CDEX 江口氏より報告された
- 次回執行部会日程 等
  - 12 月～3 月は会議室がとりにくくなることが予想されるため、あらかじめ 4 か月分の会議スケジュールを決定していただきたいと事務局より要請があった
  - 近日中に川幡部会長より事務局宛に候補日を連絡する